

はしがき

——これから経営学を学ぶにあたって——

21世紀に入り現代社会は、これまで集積された科学技術に基づき、人工知能、IoTなどの先端技術が実用化された第4次産業革命の只中にあり、さらに、AI、IoTにゲノム編集といったバイオテクノロジーが融合する第5次産業革命をも目前に迎えつつある。

社会環境のすべての部分が変動性（volatility）、不確実性（uncertainty）、複雑性（complexity）、曖昧性（ambiguity）といった言葉によって表現されるほど、これからの社会の未来像を予測することがより難しくなる状況となっている。このような不確実性に対応するためには、今まで人類が経験したことのない新しい問題を解決するための、創意的かつ挑戦的な姿勢が必要となるが、経営学は、こうした環境の変化に対応するための対策を模索するに当たって、重要な知識基盤を提供している。

経営学に接する機会がなかった人からみると、経営学を会社運営スキルや金銭的利益を得る実利的な方法を学ぶ学問分野として認識することもあり得ないことではないのだが、経営学は企業をはじめとする多様な組織の経営現象を対象に、科学的方法でその中に存在する法則を探り、実践的な目的に従って活用しようとする社会科学の学問である。

巨大企業の運営に成功し莫大な富を蓄積した実業家が、必ずしも経営学の知識を背景に、そのような結果を得たとはいえない。多くの場合、企業の成長過程で磨かれてきた自分だけの経営ノウハウが、多様な環境要因と絡み合い、成功という結果を生み出したのである。経営学は、このような経営活動を成功に導くためのノウハウを、特定個人の「ストーリー」や「経験」だけではなく誰にも適用可能な、より一般化された知識として理論化するため、経営活動と様々な環境的变化の原因を科学的方法で分析し、理論を構築する学問といえる。

経営活動は、企業のような組織の構成員や一般の個人を含め、国や世界経済のような多彩な経済主体と相互に作用するため、経営学は、経済学、社会学、

心理学といった多様な学問領域までを総合的に考慮し、科学的理論を展開していく領域横断的な性格をもっている。そして、そこで成立した理論的基盤は現実の世界ですぐに応用することが可能であり、実務的な影響力が重視されている学問領域でもある。

このような経営学の属性を踏まえて、経営学に対する理解を深めるためには、前述のとおり経済学や社会学、心理学などの関連分野に興味をもち並行して学習を進めていくことが望ましい。また、学んだ内容を様々な社会の実状に照らし合わせ応用してみることで、現実的な活用度を高めることが大切である。

大学などで自然科学をはじめとする他の学問領域を専攻している場合は、経営学を学習することで、これから様々な分野に就職後、その経営現場において、経営学の知識を活かして活躍の場を広げることができる。そして、それぞれの専門分野でプロフェッショナルとして活躍しながら、一定の経験を積んで管理層になったときには、組織の管理者として、経営学で学んだ知識を活用することでより一層大きな役割を果たすことができるだろう。さらに、細分化された専門知識を身につければ、「会計」、「財務」、「マーケティング」、「人事・組織管理」の専門家、または「経営戦略」の専門家としてポジショニングし、経営コンサルタント、金融専門家、財務アナリスト、会計士、税理士などの資格をもって活躍することも可能となる。

本書の構成

本書は、経営学における各分野で活躍する気鋭の専門研究者が執筆し、経営学全般に対する基本的かつ基礎的な知識をわかりやすく解説している。

各章では、事例も交えながら重要な理論やキーワードについて詳解し、関連するテーマを結ぶクロスリファレンスをはじめ、理解を深めるための「コラム」なども設け、初学者にとって経営学を学び始めるための第一歩として、必要十分な知識と問題意識を習得することを可能にしている。

ぜひ本書が、読者の方々にとって、これからの企業社会で活躍する際に役立つ知識を提供することができれば幸いです。

2022年3月

執筆者を代表して ク ジャスン
具 滋承 (JaSeung Koo)